

第74回 病態生化学セミナー

日時：平成25年8月23日（金曜日）午後6時00分～

場所：医学部 図書館3階 視聴覚室

演題：自己免疫性水疱症である天疱瘡の水疱形成機序

The pathomechanisms of acantholysis in pemphigus

演者：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科皮膚科学

青山 裕美 先生

天疱瘡の自己抗原の解析研究が進み、抗 Dsg 抗体が天疱瘡の原因とわかってきた。数々の観察の結果から、抗体によるデスモソームの離解に際してダイナミックなデスモソーム構成分子の変化が生じていることがわかってきている。

デスモソーム構成分子の動きからみた水疱形成機序は、①非デスモソーム Dsg3 と抗体の複合体形成 ②非デスモソーム Dsg3 のエンドサイトーシス ③抗体によるデスモソーム Dsg3 のデスモソームからの離脱 ④Dsg3 欠損デスモソームの形成 ⑤機械的な刺激により棘融解が生じる。デスモソームのリモデリングによって病態が進行する過程を概説する。

また、抗デスモグレイン3抗体のエピトープからみた水疱形成機序として、天疱瘡抗体の病因性抗体と非病因性抗体がある根拠、臨床症例における病因性の高い抗体の特徴と病因性が低い抗体の特徴、さらに我々が考案した病因性の高い立体構造抗体を簡単に見分ける方法を紹介する。【青山 裕美】

連絡先：

浦野 健

島根大学 医学部 病態生化学

TEL 0853-20-2126

E-mail turano@med.shimane-u.ac.jp